

S I I T 留学報告書

電子・光システム工学科4年

田井・丈嗣

2008年6月から10月までタイ王国のタマサート大学・シリントーン国際工学部（以下S I I T）へ五ヶ月間の留学について報告します。

私は今回のS I I Tへの留学で、日本から一緒にいった留学生達と協力し合えたこと、S I I Tで授業を受けたこと、海外で生活したこと、またタイの人たちやS I I Tの学生、ミャンマーや、ドイツ、フランス、アメリカやモルディブといった海外の留学生とも交流を持てたことが大きな経験となったと考えています。

留学生活は、S I I T当初は学生、留学生達と会話をするとき、頻繁に言葉に詰まり自分の考えや、やりたいことが伝えられないことが良くありました。また、相手の話している発音や単語が聞き取れず、会話が続かないことが続きました。

しかし、明るく気楽に話しかけてくれる多くのタイの人たちや留学生達と英語を通じて交流しているうちにだんだんと英語を使うことや、人々に接することに対する私の抵抗が減っていったように感じています。

タイでの生活が2ヶ月なかば過ぎた辺りから、留学生との会話や、BBCなどのラジオ、音楽CDやTOEICの問題等を聞いたとき、以前は聞き取れなかった単語もだいぶ聞けるようになったことを実感できました。英語での会話をする際も、相手の伝えたい言葉や講義の内容も以前より自然と聞くことができるようになりました。

今考えてみると、留学当初、私は、相手に遠慮するあまり、過度に遠慮して接して相手に合わせるだけの会話が多かったと思います。そのため自分の意見が出ず、かえって会話が続かないことになっていたと思います。

タイの留学中に学んだ経験のひとつとして、タイ人の学生やタクシーの運転手たちがしゃべる英語には、語尾の発音を上げて伸ばすようなタイ語独特の訛りがあり、かれらと話すときはそれを意識しないと聞き間違いや、何度しゃべっても聞き取ってもらえないことが良くあり、タイや英語圏の文化では、きち

んと発音することの大切さがわかりました。

タイでの生活について

私が留学していた6月から10月にかけてはタイでは雨期に辺り、よく突然スコールがあったりしました

タマサート大学には三つのキャンパスがありバンコク市内のキャンパス、バンコク市内から北40キロほどにあるランシットキャンパス、主に授業を受けていたバンガディキャンパスがあります。私は、ランシットキャンパスに近いマンションに住んでいました。私が住んでいたマンションにはドイツやフランスや中国からの留学生も住んでいました。彼らとよく交流することがあり、タイの観光地についての話や、ドイツ料理を食べに行くことや、ドイツでの学生生活、フランスについての話を聞くことができました。

特にフランスから来た留学生は、空港に同じ日に着いたこと、学部が同じだったこともあり、よく日本からの留学生と一緒に彼女とも一緒に行動し、よくみんなと一緒に食事を取ったり、たまに休みの日には、観光に行っていました。

タイは、日本に比べて物価が安いことが多く、食事なども一食にかかる値段が20バーツから80バーツ（当時60円から、240円程度）、バンコク市内に行くバスやバンなども90円程度でだいたいものの物価が日本の3分の1物によっては10分の1の値段で売っていました。

タイの人が多く行くマーケットは基本的に物が安いことが多かったです。反面、外国人観光客が多く訪れる観光地やマーケットでは、通常値段よりも2、3割増しで売っており、知らないで買うと高値で買わされる店がありました。また、タクシーで行き先を告げても、メーターを使った場合の2倍程度の料金を最初に言うてくる運転手も何人もいました。日本と違いこういった時と場所によって値段が違うことがありました。

私は今回の留学生活で、講義を通して学んだ英語、タイの人たちや留学生との交流で積極的に行動することの大切さや英会話の際に必要なことを学ぶことができました。また、このタイで生活した経験は、これから英語圏の国々はもちろんアジアの人たちと交流を持ったり、将来仕事をするようになった際もきっと活かすことができると考えています。